

2025年1月28日所長会見 所感

- 本日、私からは4点お話させていただきます。
- 一点目は、6号機、タービン系の健全性確認についてです。お手元の資料をご覧ください。
- 1月17日から①の循環水系の確認を開始し、24日に終わっています。久しぶりの作動であったことから、一部の弁が完全に開ききらないといったことはありましたが、大きな不具合は確認されませんでした。
- 現在は、②の復水・給水系の健全性確認を行っているところです。
- 引き続き、安全最優先で工事を進めるとともに、燃料装荷までの健全性確認を一つひとつ丁寧に進めてまいります。
- 2点目は、先日の新年挨拶訪問です。
- 知事、市長、村長からは、当社のセーフティ・セキュリティに関する取組や地域の皆さまとのコミュニケーションについて、一定のご評価・ご理解のお言葉をいただきました。
- これに甘んじることなく、地域の皆さまからのご期待の声を裏切ることがないように、いま一度、気を引き締めて安全な発電所運営を行う必要がある旨を所員へ伝えたところです。
- また、知事からは、安全最優先の取組などについて、地域の皆さまへ行動と実績で示すよう、お言葉をいただきました。

- 発電所では、社員含め、約6千名が働いており、そのうちの約8割は新潟県出身と、一番身近な地域の皆さまとも言えます。
- 行動と実績を地域の方々に示すためには、まずは、発電所で働く人々が「現場力」をより一層高め、「自分の発電所は安全・安心な職場だ」、「仕事の達成にやりがいがある」と感じられるようにすることが重要です。
- 去年は、人身災害が増えたこともあり、現場でのワイガヤ検討会や班長対話を開催し、現場レベルでの連携を強化してきました。
- 今年は更に「現場力」を高めていくためにも、所員一人ひとりが、これまで以上に「現場」に足繁く通い、現場で働く皆さんと作業プロセスを一緒に議論し、確認していく必要があると考えています。
- 発電所で働くすべての人が、同じ目的をもつ仲間として、ともに技能や安全に対する意識を高め、小さな気付きも共有・改善することが徹底されるような姿、いわゆるワンチームを目指してまいります。

- 3点目は、24日、25日に実施された新潟県主催の原子力防災訓練についてです。
- 私は訓練の参加者ではありませんでしたが、25日に魚沼響きの森文化会館で実施された避難退域時検査・簡易除染訓練の様子を拝見しました。
- 訓練に参加された地元の皆さまが、指示に従い、整然と行動されている様子を見て、お一人おひとりの真剣さが伝わってきました。
- 原子力防災訓練には、HD、EP、PG、RPと東京電力グループ全体で、二日間にわたり、延べ約170名が参加し、本部運営訓練や、住民避難訓練、放射線に関する講習の講師などの対応を実施しました。
- 当社社員が避難退域時検査、除染作業に声を掛け合いながら、きびきびと対応している姿は、心強く感じました。
- 訓練を見ている中で、福島第一原子力発電所事故当時のことを思い出し、あらためて、「この地で事故を起こしてはならない」と発電所を安全に運営することへの気持ちを強く持ちました。
- 引き続き、発電所の安全性を高めていくとともに、出来る限りの避難支援にも取り組んでまいります。

- 最後に、昨日公表をしております、衛星電話の一部使用不能による運転上の制限の逸脱についてです。
- 11月と1月14日に続き、発生しておりますが、事案を踏まえて、設備の増設工事を実施しているところです。
- 本件は、当日中に予備品と交換し、運転上の制限の逸脱からは復帰しておりますが、引き続き、これまでの事案との共通要因が無いかなど、原因を調査し、対策を講じてまいります。
- 本日、私からは以上です。